

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 減少も過去2番目の貿易赤字額(04年12月貿易統計)

発表日: 05年2月10日(木)

~減少したものの原油価格の一時的な下落によるもの~

(No. UI - 164)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001、4518 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

貿易収支(U.S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入			
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports	財 Goods	Imports	財 Goods		
03/12	440.10	485.22	+45.12	0.1	(+10.8)	0.7	+3.0	(+7.8)	+3.1
04/01	458.64	496.88	+38.24	1.5	(+8.2)	1.3	+0.4	(+9.1)	+0.3
04/02	458.80	498.66	+39.86	+4.1	(+11.5)	+5.3	+2.7	(+12.2)	+3.1
04/03	471.48	515.01	+43.53	+3.2	(+14.7)	+3.6	+3.1	(+12.4)	+3.5
04/04	485.28	530.83	+45.55	1.0	(+16.1)	2.0	+0.3	(+15.4)	+0.2
04/05	474.06	515.70	+41.64	+2.7	(+17.4)	+4.2	+1.0	(+17.0)	+1.0
04/06	554.36	592.13	+37.77	4.0	(+10.0)	5.8	+2.9	(+19.2)	+3.0
04/07	506.51	548.57	+42.06	+3.2	(+12.2)	+4.3	1.2	(+16.0)	1.3
04/08	539.56	570.79	+31.23	+0.4	(+14.6)	+0.8	+2.5	(+20.9)	+2.3
04/09	510.20	550.80	+40.60	+1.3	(+13.5)	+1.7	1.1	(+16.8)	0.7
04/10	560.99	602.09	+41.10	+0.3	(+11.1)	+0.1	+3.6	(+18.9)	+4.2
04/11	593.33	634.76	+41.43	0.9	(+7.7)	1.7	+1.6	(+20.2)	+1.6
04/12	564.03	605.60	+41.57	+3.2	(+11.2)	+4.4	+0.1	(+16.8)	+0.1

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
	原材料 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		原材料	資本財	自動車	消費財	
04/04	2.3	2.2	2.3	1.2	0.8	+0.3	3.0	+2.0	+0.3	+1.4
04/05	+4.1	+6.2	+6.1	+1.3	0.6	+1.0	+3.4	+0.9	+2.3	1.9
04/06	5.6	7.2	8.2	3.6	1.1	+3.0	+9.8	+4.7	3.7	0.3
04/07	+3.8	+7.4	+5.2	+8.4	2.2	1.3	3.4	0.6	+2.3	1.5
04/08	+0.9	1.8	0.1	+3.2	+4.1	+2.3	+8.0	0.4	+0.5	0.4
04/09	+1.9	+2.6	+1.0	1.2	+2.6	0.7	3.0	+1.6	+1.3	0.2
04/10	0.1	+2.9	+0.1	0.8	+0.0	+4.1	+8.3	+1.0	0.4	+5.5
04/11	1.8	1.8	3.4	1.5	0.4	+1.6	+4.0	0.6	2.1	+2.3
04/12	+4.3	+4.1	+5.8	+3.7	+7.1	+0.1	2.1	+2.1	+1.8	0.1

(注) 季節調整前月比伸比率。

*1: Industrial supplies and materials

*2: Capital goods, except automobiles

*3: Automobiles vehicles, parts and engines

*4: Consumer goods, except automobiles

	輸出						輸入					
	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本		カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本	
04/04	+14.5	+9.3	+20.0	+14.2	+16.2	+6.5	+14.5	+17.3	+11.4	+18.7	+14.1	+7.9
04/05	+16.2	+7.4	+17.9	+17.3	+19.8	4.8	+15.6	+13.0	+15.6	+12.8	+17.4	+8.3
04/06	+10.9	+9.6	+14.6	+6.0	+9.5	+7.5	+22.4	+23.9	+24.9	+14.3	+23.8	+13.0
04/07	+12.0	+14.9	+12.0	+10.6	+8.7	+8.5	+14.4	+15.4	+13.5	+5.9	+17.2	+9.0
04/08	+15.3	+23.6	+18.3	+11.0	+9.5	0.4	+24.7	+25.4	+19.6	+19.9	+23.8	+17.9
04/09	+15.7	+14.8	+14.5	+14.9	+16.8	+7.0	+16.6	+13.1	+21.5	+7.1	+18.7	+11.7
04/10	+11.0	+9.1	+10.4	+10.4	+9.6	+20.3	+15.5	+12.7	+18.8	+6.9	+11.4	+3.2
04/11	+8.2	+14.9	+15.0	+4.1	2.6	5.2	+26.9	+21.8	+26.4	+15.8	+24.0	+13.2
04/12	+13.9	+15.5	+15.1	+17.8	+4.4	0.2	+16.8	+13.5	+16.6	+9.0	+17.2	+10.5

(注1) 未季節調整前年比伸比率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

564.03 億ドルと過去2番目の赤字額

12月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、564億ドルの赤字(前月比+7.7%)と、赤字額が市場コンセンサスの570億ドルを小幅下回ったものの過去2番目の高水準となった。サービス収支の黒字額が拡大し、財収支の赤字額が縮小した。原油価格の下落による原油輸入額の減少を背景に輸入が前月比+0.1%の増加にとどまった。一方、通信機器、民間航空機・同部品や、自動車の増加を主因に輸出が同+3.2%と拡大に転じたことから、貿易赤字額は前月から

減少した。

11月の統計でカナダ側のミスにより米国のカナダ向け輸出が過少報告されていたが、今回修正されたこと等により、11月の貿易赤字は 602.97億ドルから 593.33億ドルに下方修正された。この結果、10～12月期の純輸出の実質GDP寄与度は速報の 1.73%から約 1.1%に改定される見込み。

経常赤字の削減には 長期間にわたるドル 安が必要

原油価格下落の影響により貿易赤字は減少したが、原油以外の輸入が高水準で推移しており、現状の貿易・経済構造では貿易赤字の根本的な削減は難しいと考えられる。貿易赤字を大幅に縮小させるためには、輸入が減少するか、輸出が大幅に増加する必要がある。しかし、輸入を減少させる場合では、国内の消費を抑制しなければならず雇用の拡大ペースが鈍化、或いは減少し、景気後退に陥るリスクがある。このため、輸入が増加するなかで輸出が大幅に拡大する必要がある。この方法としては、相手国の輸入障壁の撤廃、米国の輸入の所得弾性値が貿易相手国よりも高く、上昇トレンドにあることから輸出先の米国を上回る高い成長、ドル安がある。 、 については、貿易相手国の輸入障壁は簡単にはなくなり、貿易相手国の金融財政政策が米国ほどの柔軟性に欠けるため高い成長も期待できない。

このような状況のもと、ドルが進んでいたが、グリーンスパンFRB議長がロンドンでの公演で経常収支の改善に楽観的な見方を示したと市場で判断されたこと、予算教書で政府の歳出抑制スタンスが好感されたことから、実質ドル実効レートは上昇した。もっとも、財政赤字が減少しても経常赤字の拡大傾向に歯止めがかかる可能性は低い。また、米政権は為替政策を変更しておらず、為替レートはファンダメンタルズに基づき市場で決定されるとのスタンスを維持している。

経常赤字削減のためには、生産能力の拡大が必要であり、少なくとも現状水準程度のドル実効レートが長期にわたり維持される必要がある。このため、短期的にドルが強含んでも高水準の経常赤字を材料にドルの上値が抑えられよう。

対中国貿易赤字は貿易赤字全体の4分の1を占める

地域別の収支では、対中国が 143億ドルと昨年6月以来の低い水準となったが12ヵ月連続で最大赤字国(貿易赤字全体の25.5%)。対欧州はユーロ高にもかかわらず 103億ドルと高水準で推移しており、欧州景気を下支えしている。対欧州では、米欧金利差の拡大が続くものの緩やかなペースが予想されることや、対欧州での貿易赤字が高水準で高止まりしていることから、ユーロは現在の調整局面終了後に対ドルで再び強含み易い環境にある。対NAFTAが 83億ドル(前月 98億ドル)、対日は 68億ドル(前月 73億ドル)、対OPECが 58億ドル(前月 69億ドル)と高止まりしている。

輸入では、原油価格 下落を映じ原材料が 大幅に減少

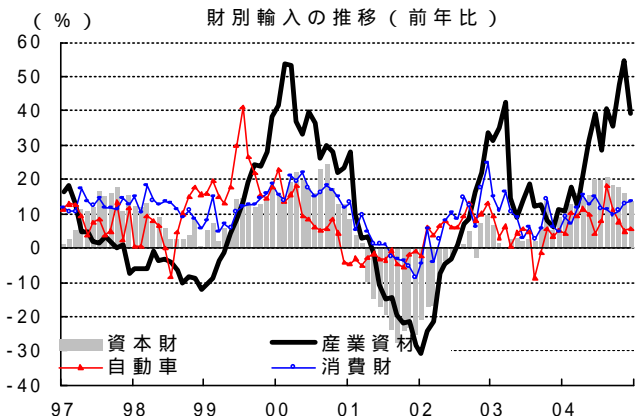
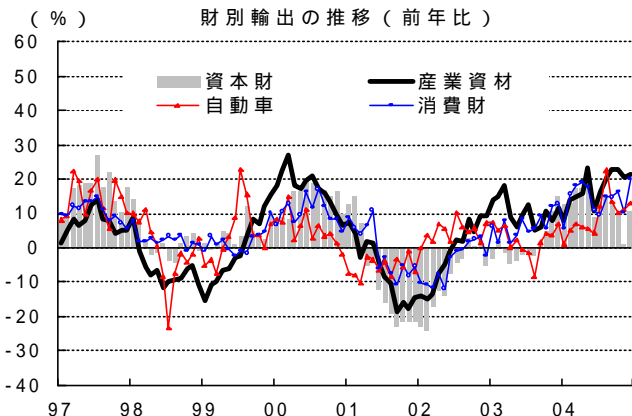
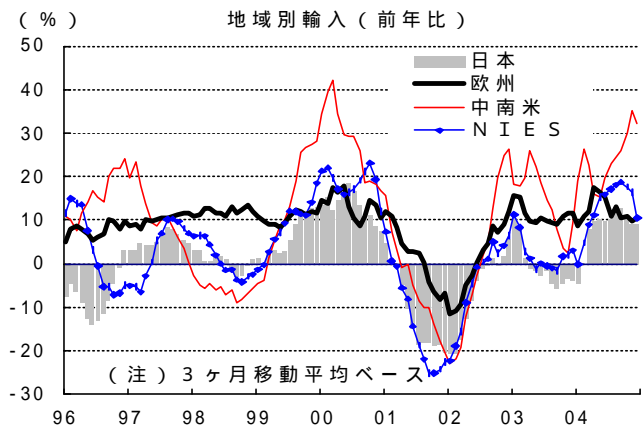
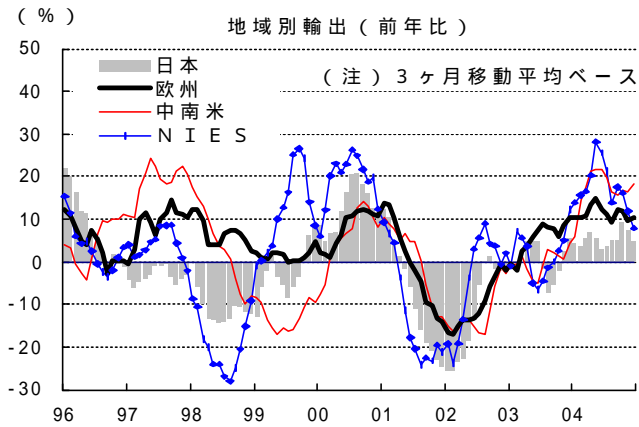
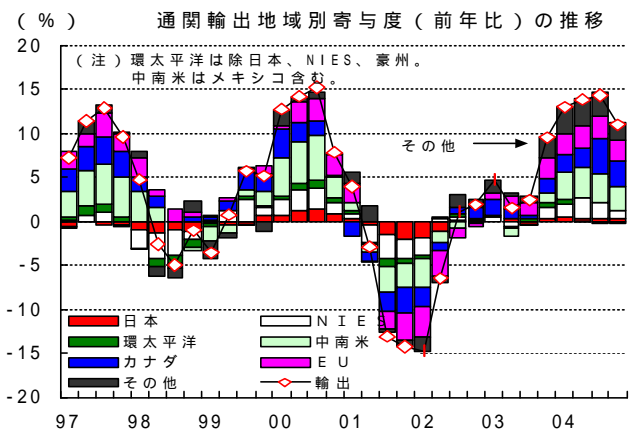
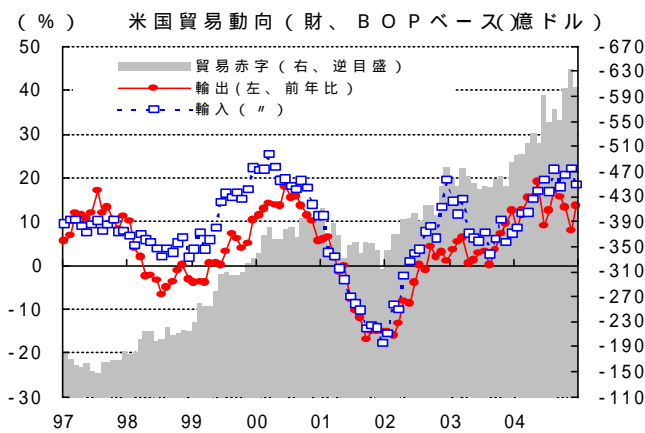
通関ベースでは、輸入は原油等原材料、消費財の減少によって前月比+0.1%と小幅な伸びにとどまった。一方、輸出は自動車、消費財、資本財、原材料の全てで拡大したため3ヵ月ぶりの増加となった。

輸入の商品別の内訳では、天然ガス、化学等が増加したものの、原油、石油製品、燃料油等の輸入が減少したため産業資材が前月比 2.1%と3ヵ月ぶりの減少となった。特に、原油は同 9.3%と急減した。消費財は調合薬、iPodなど音響機

器が増加したものの、骨董品・絵画、アパレル関連が減少したため同 0.1%と3ヵ月ぶりの減少となった。一方、自動車を除く資本財輸入は、コンピューター、民間航空機・同エンジン・同部品、通信機器、産業機械等の拡大により同+2.1%と増加に転じた。海外自動車メーカーの好調な販売を映じて自動車が同+1.8%と3ヵ月ぶりに増加した。

輸出は全般的に増加

輸出の商品別の内訳では、増加額の大きい順にみると 産業用動力機、通信機器、コンピューター部品、医療機器、民間航空機エンジン、通信設備等の拡大により資本財輸出は前月比+5.8%と2ヵ月ぶりに増加した。天然ガス、プラスチック原料、化学製品等の拡大によって産業資材が同+4.1%と増加した。自動車が同+3.7%と4ヵ月ぶりの増加、その他家財道具、宝石、TV等の拡大によって消費財が同+7.1%と増加した。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。